

contents

自粛で日本人の生活がどう変わったか …………… 1	性教育・性科学 世界の今① …………… 13
いつきの“ヒューマン・ピーニング”④ …………… 9	今月のブックガイド …………… 14
性教育の現場を訪ねて④ …………… 10	JASEインフォメーション …………… 15
多様な性のゆくえ⑤ …………… 12	

自粛で日本人の生活がどう変わったか

厚労科研「コロナ禍における第一次緊急事態宣言下の日本人1万人調査」

一般社団法人日本家族計画協会会長 北村 邦夫

はじめに

2020年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(厚生労働科学特別研究事業)研究「新型コロナウイルス感染症流行下の自粛の影響——予期せぬ妊娠等に関する実態調査と女性の健康に対する適切な支援提供体制構築のための研究」(主任研究者安達知子日本産婦人科医会常務理事)の分担研究として「コロナ禍における第一次緊急事態宣言下の日本人1万人調査」を実施した。この調査は、2020年4月7日に第一回目の緊急事態宣言が発令された前後の3月下旬から5月下旬(以下「その時期」)を振り返ってという条件付きで、20歳から69歳の日本人男女1万人を対象として実施したものである。

自粛下に妊娠や暴力が増えたか

自粛生活を余儀なくされた当時、メディアを通じて

様々な憶測が流れたことはまだ記憶に新しい。

- ①若者たちが「にんしんSOS」に殺到したこと。全国一斉休校などによって家庭での自粛を余儀なくされた若者たちの性行動が活発化し妊娠例が増えたのだろうか。
- ②妊娠届出数が前年に比べて激減していたことが話題になった。特に、20年5月では前年比17.1%減となったことが国から発表された。3密を避けるために日本人がセックスを控えた結果なのだろうか。
- ③自粛下にあってパートナー間の暴力や家庭内暴力が頻発しているとの報道もあった。UN WOMENでは、「COVID-19——女性と女の子に対する暴力」の報告書で、世界では15歳から49歳の女性と女の子の18%近くが、直近12か月の間に親密な関係にあるパートナーから性的・身体的暴力の被害を受けたという。自粛が続く窮屈で閉塞的な住環境下では、この数字は増加すると見られている。
- ④COVID-19が長期化する中、時短営業を求められ、失業や休業に伴う貧困、孤独などにより自殺が増

加。中でも女性の自殺が目立つなどの警察庁データも目を引いた。果たして事実はどうなのだろうか。

限られた紙面ではあるが、調査結果の一部を以下紹介したい。

調査は20歳から69歳の男女1万人

2015年に実施した国勢調査の結果に準じて、20歳から69歳までの都道府県・性・年代に割り付けて標本数を配分し1万人を調査対象者として、2020年10月26日(月)から29日(木)まで、(株)クロス・マーケティングによるインターネット・リサーチ(アンケート依頼メールを各回答者に配信しウェブ上で回答)が行われた。配信数は163,881人、調査対象者自身や家族に新聞・雑誌・テレビ・ラジオ・広告等マスコミ関係・市場調査関係者がいる、あるいは短時間回答者は調査除外対象とし10,000人を回収した。その後、データ・クリーニングを行い、不適正回答と思われる人を集計対象者からさらに除外し9,990人について集計解析した(表1)。

また、本調査はインターネットによるモニター調査であることから、全数調査である国勢調査(2015年)と比べ、どの程度サンプルに偏りがあるかを検証した。その結果、配偶状況や就業状況ではその偏りはさほど多くはないものの、本調査は高学歴者に偏るという傾

向があることから、結果の解釈に際しては、その点を留意する必要があるとした。なお、調査に際しては、日本家族計画協会研究倫理審査委員会に諮り承認された。(20年10月9日、承認番号JFPA-2020022)

調査対象者のプロフィールの概略

- ①性別：男性が4,996人、女性4,994人
- ②年代：20代(15.5%)、30代(19.5%)、40代(23.0%)、50代(19.3%)、60代(22.7%)で、概ね等分されている。
- ③結婚形態：未婚(38.3%)、初婚(50.4%)、再婚以上(4.0%)、死別(1.5%)で離婚も5.8%。
- ④就業状況：共にフルタイム(25.3%)、夫はフルタイム、妻はフルタイムでない(26.1%)、妻はフルタイム、夫はフルタイムではない(1.5%)、夫のみ就労(41.1%)、妻のみ就労(6.1%)。
- ⑤子どもの有無：53.0%が「子どもはいない」と回答。「子どもがいる」のは47.0%。
- ⑥職業：「勤め人(常勤)」が最多で46.6%、次いで「勤め人(非常勤、アルバイトなど)」16.5%、「主婦・主夫」14.1%、「現在は働いていない」12.5%、「自営業(事業の経営者、家事の手伝い、フリーランス)」7.6%、「学生」2.7%と続く。
- ⑦最終学歴：「大学卒」が40.1%と最多、「高等学校卒」29.9%、「専門学校卒」11.3%、「短期大学卒」9.5%

表1 各都道府県の性別サンプル数

	全体		男性		女性	
	9,990	100.0	4,996	100.0	4,994	100.0
合計	9,990	100.0	4,996	100.0	4,994	100.0
北海道	424	4.2	204	4.1	220	4.4
青森県	102	1.0	50	1.0	52	1.0
岩手県	98	1.0	49	1.0	49	1.0
宮城県	182	1.8	92	1.8	90	1.8
秋田県	77	0.8	39	0.8	38	0.8
山形県	85	0.9	43	0.9	42	0.8
福島県	149	1.5	77	1.5	72	1.4
茨城県	229	2.3	118	2.4	111	2.2
栃木県	157	1.6	80	1.6	77	1.5
群馬県	154	1.5	78	1.6	76	1.5
埼玉県	588	5.9	299	6.0	289	5.8
千葉県	497	5.0	252	5.0	245	4.9
東京都	1,131	11.3	575	11.5	556	11.1
神奈川県	744	7.4	382	7.6	362	7.2
新潟県	177	1.8	89	1.8	88	1.8
富山県	82	0.8	42	0.8	40	0.8
石川県	87	0.9	43	0.9	44	0.9
福井県	57	0.6	29	0.6	28	0.6
山梨県	66	0.7	33	0.7	33	0.7
長野県	156	1.6	79	1.6	77	1.5
岐阜県	156	1.6	78	1.6	78	1.6
静岡県	288	2.9	146	2.9	142	2.8
愛知県	596	6.0	305	6.1	291	5.8
三重県	139	1.4	70	1.4	69	1.4
滋賀県	112	1.1	56	1.1	56	1.1
京都府	697	7.0	342	6.8	355	7.1
大阪府	432	4.3	210	4.2	222	4.4
兵庫県	105	1.1	50	1.0	55	1.1
奈良県	72	0.7	35	0.7	37	0.7
和歌山県	202	2.0	100	2.0	102	2.0
鳥取県	42	0.4	20	0.4	22	0.4
島根県	50	0.5	25	0.5	25	0.5
岡山県	145	1.5	71	1.4	74	1.5
広島県	217	2.2	108	2.2	109	2.2
山口県	104	1.0	51	1.0	53	1.1
徳島県	58	0.6	29	0.6	29	0.6
香川県	73	0.7	36	0.7	37	0.7
愛媛県	103	1.0	50	1.0	53	1.1
高知県	54	0.5	26	0.5	28	0.6
福岡県	399	4.0	192	3.8	207	4.1
佐賀県	64	0.6	31	0.6	33	0.7
長崎県	103	1.0	50	1.0	53	1.1
熊本県	135	1.4	66	1.3	69	1.4
大分県	87	0.9	43	0.9	44	0.9
宮崎県	82	0.8	39	0.8	43	0.9
鹿児島県	124	1.2	60	1.2	64	1.3
沖縄県	109	1.1	54	1.1	55	1.1

と続く。「中学校卒」は2.3%。

- ⑧昨年の個人年収：「100万円未満」が29.9%と最多。「100～200万円未満」14.6%、「200～300万円未満」13.5%、「300～400万円未満」12.1%と続く。「800万円以上」は6.8%であった。
- ⑨労働日数：最も多いのは「週5日」で61.4%、次いで「週4日」13.9%、「週6日」11.4%、「週3日」5.9%と続く。

「充実していなかった」が男女ともに6割超え

その時期における心境を聞くと、「充実していなかった」が男女ともに6割を超えているが、「充実していた」（充実していた+やや充実していた）との回答も男性37.2%、女性38.7%であった（図1）。

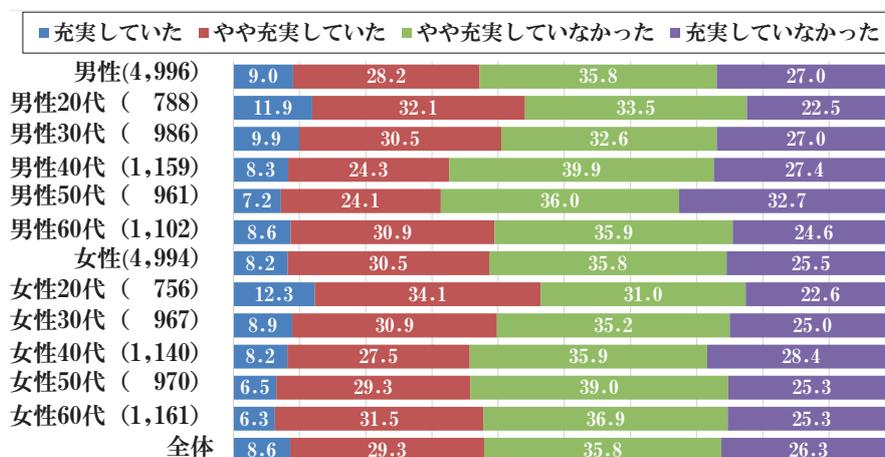
「充実していた（充実していた+やや充実していた）」と「充実していなかった（やや充実していなかった+充実していなかった）」の2群で各種要因とのクロス集計を試みると、自粛下でも「充実していた」と回答した男性は、「（未婚に比べて）初婚・再婚以上」「子どもがいる」「学生」「高校卒以上」「昨年の年収400万円以上」「セックスの経験あり」「パートナー（配偶者・恋人など）がいる」「自宅で過ごす時間が減った」「在宅勤務した」「休日の頻度が減った」「収入が増えた」「自宅で過ごす時間が減った」「在宅勤務した」「休日が減った」「収入が増えた」「自粛下、パートナーがいた」「パートナーとの関係が良好だった」「子ども

を預ける場所があった」「結婚した」「離婚した」「運動習慣が増えた」「喫煙量が減った」「パートナー間での暴力があった」「パートナー間での暴力の頻度が減った」「セックスの回数は増えた」「パートナー以外とのセックスがあった」「緊急避妊利用した」「妊娠した」「年齢が20歳代・30歳代」「不妊治療は不要不急だと思う」など。

一方、「充実していた」と回答した女性では、「（未婚に比べて）初婚・再婚以上」「夫婦共に就労」「学生」「昨年の年収400万円以上」「セックスの経験ある」「パートナー（配偶者・恋人など）がいる」「自宅で過ごす時間が減った」「在宅勤務した」「収入が増えた」「自粛下、パートナーがいた」「パートナーとの関係は良好だった」「結婚した」「離婚した」「運動習慣増えた」「喫煙量減った」「相手に暴力を振るった」「セックスの回数増えた」「パートナー以外とのセックスがあった」「緊急避妊を利用した」「妊娠した」「年齢20歳代・30歳代」など。

自粛下であっても「充実していた」と回答した者についてみると、男女ともに目立つのは、「パートナーの存在」であった。「未婚」よりも「既婚」であること、さらに「自粛下でもパートナーがいた」「パートナーとの関係が良好であったこと」「セックスの回数が増えたこと」「パートナー以外とセックスした」など。これらに共通しているのは、自粛下であっても孤立していなかったというのが「充実」に繋がったのではないだろうか。女性では有意差がなかったが、男性

図1 コロナ禍における心境（%）



Q3 この時期におけるあなたの心境について最も近いものを教えてください。（SA）

※この時期とは「緊急事態宣言」前後(2020年3月下旬～5月下旬)になります

では「子どもがいる」がさらに加わっている。「学生」「年齢が20歳代・30歳代」というように若い世代が「充実していた」と回答する一方で、「昨年の年収が400万円以上」「収入が増えた」などは多少矛盾しているかのような印象がある。また、在宅勤務は自宅で過ごす時間が増えることになるが、男女ともに「自宅で過ごす時間が減った」と「在宅勤務した」との回答があり、これをどう捉えたらいいのだろうか。

自粛下、パートナー間の暴力があったか、なかったか

自粛下における暴力については、国内外において注目されている。本調査では、「自粛下、パートナー間の暴力があった」と回答した男性は4.3%、女性は3.8%。「あった」には「相手から振るわれた」（男性38.2%、女性65.6%）、「相手に対して自分が振るった」（男性34.1%、女性16.0%）、「お互いに振るった」（男性27.6%、女性18.4%）とあるように、決して男性から女性への暴力に留まるものではないが、わが国において「あった」と回答した男女の背景に何が潜んでいるのかを知るために全クロス集計を試みた。

男性で統計的に有意な差が認められたのは、「学生」が他の職種を圧倒している。「夫婦共に就労」「充実していた」「自宅で過ごす時間が減った」「在宅勤務をした」「休日の頻度が減った」「失業した」「休業した」「パートナーとの関係が悪くなった」「子どもと過ごす時間が減った」「結婚した」「離婚した」「パートナー以外とのセックスがあった」「女性避妊法が使われた」「緊急避妊を利用した」「妊娠した」「人工妊娠中絶した」「年齢は20歳代・30歳代」「不妊治療は不要不急だと思う」などであった。

一方、女性については、「セックス経験がない」「パートナー（配偶者・恋人など）がいない」「自宅で過ごす時間が減った」「在宅勤務をした」「休業した」「パートナーとの関係が悪くなった」「結婚した」「離婚した」「喫煙量が減った」「セックスが増えた」「パートナー以外とのセックスがあった」「女性避妊法が使われた」「緊急避妊を利用した」「妊娠した」「人工妊娠中絶した」「年齢は20歳代・30歳代」「不妊治療は不要不急だと思う」。

自粛下、暴力が起こる原因としては、在宅勤務など

によって家族と過ごす時間が増えたことが話題になっている。今回の調査では、男女ともに、「在宅勤務をした」がパートナー間の暴力と有意に関係しているが、その一方、「自宅で過ごす時間が減った」が共通している点をどう関係づけたらいいのだろうか。「在宅勤務の有無」と「自宅で過ごす時間」とのクロス集計結果によれば、自粛下、新たに在宅勤務が始まったと回答したものは、男女共に、自宅で過ごす時間が「増えた」と回答していることから、「在宅勤務があった」と「自宅で過ごす時間が減った」というのは別次元のことと捉えることができる。自宅で過ごす時間が「減った」という少数の男女の場合、それがストレスとなって「暴力があった」との回答になったとも考えられる。

「自宅で過ごす時間が減った」と合わせて「休日の頻度が減った」「失業した」「休業した」「離婚した」「パートナー以外とのセックスがあった」「人工妊娠中絶を受けた」などが「暴力があった」と関係しているのは、どちらが引き金となったかは明らかではないが、十分想定されることである。その一方で、「充実していた」「結婚した」「妊娠した」については、暴力とは無縁のように思われるが、暴力があっても「好き」のような共依存関係にあるなどということがないだろうか。

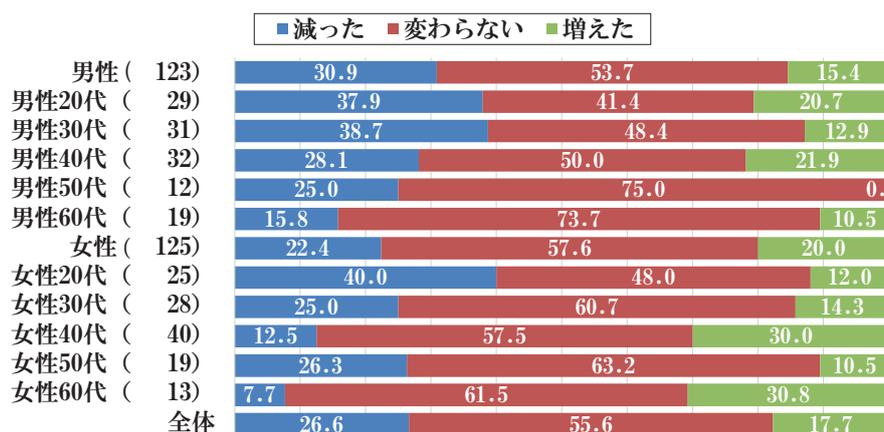
自粛下、暴力行為は「減った」

「この時期に、パートナー間の暴力行為（身体的・精神的な暴力行為）があったか」と聞くと、「あった」（現在もある＋現在は無い）は全体の4.0%（男性4.3%、女性3.8%）。目立つのは、20代男性の12.2%（現在もある7.6%、現在は無い4.6%）。

暴力が「あった」と回答した男女でみると、「パートナーから振るわれた」が全体の52.0%。その内訳は、男性から女性への暴力が65.6%と多いが、女性から男性への暴力も38.2%を数えている。

「パートナーに対して自分が振るってしまった」が全体の25.0%（男性34.1%、女性16.0%）、「お互いに振るった」は23.0%（男性27.6%、女性18.4%）。暴力行為の内容では、最多は「精神的な暴力（暴言、強迫、差別的な発言、無視されるなど）」で45.6%（男性40.7%、女性50.4%）、次いで「身体的な暴力（殴る、蹴る、叩く、刺す、など）」30.6%（男性30.9%、女性30.4%）。

図2 暴力行為の頻度の変化 (%)



Q22 この時期に、パートナー間での暴力行為の頻度は変わりましたか。

(SA)

※この時期とは「緊急事態宣言」前後(2020年3月下旬~5月下旬)になります

【ベース：パートナー間の暴力があった方】

自粛下における暴力行為の頻度の変化を聞くと、「変わらないが」が55.6% (男性53.7%、女性57.6%) だが、「減った」26.6% (男性30.9%、女性22.4%)、「増えた」17.7% (男性15.4%、女性20.0%) で、自粛下では暴力が増えるという仮説を覆す結果となった(図2)。「増えた」と回答した男性では、「自粛下、自宅で過ごす時間が増えた」「自粛下、充実していなかった」「自粛下、休日の頻度が増えた」「自粛下、パートナーとの関係が悪くなった」「自粛下、飲酒量が増えた」「自粛下、自慰の頻度が増えた」「自粛下、セックスの回数が増えた」などで有意差を認めた。自宅での時間が増え、飲酒量が増えた結果として暴力が増えたというのは想像に難くない。因果関係ははっきりしないが、性的に活発な傾向を認めている。一方、女性について暴力が増えたのは、「自粛下、自宅で過ごす時間が増えた」「失業した」「自粛下、パートナーとの関係が悪くなった」「自粛下、飲酒量が増えた」「自粛下、緊急避妊を利用していない」「40歳代」「60歳代」。男性と共通しているのが、自宅で過ごす時間が増え、関係が悪くなり、飲酒量が増えたなど。暴力が起こる背景が垣間見える。

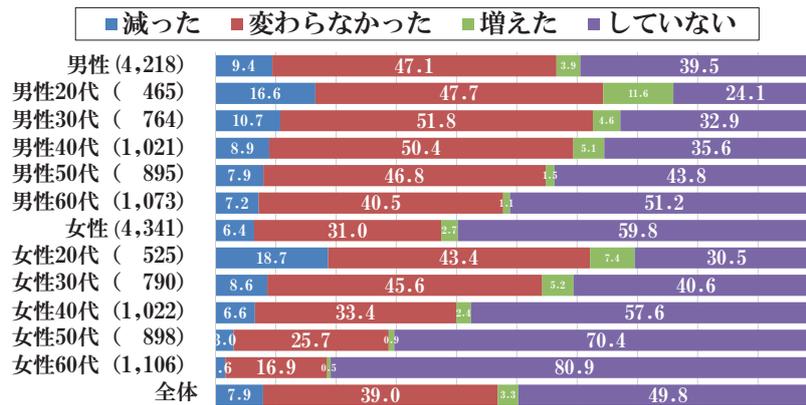
自粛下、男性の4割、女性の6割がセックスしていないと回答

「この時期に、あなた自身のセックス回数は変わりましたか」と聞くと、「変わらなかった」は39.0% (男

性47.1%、女性31.0%) だが、「していない」49.8% (男性39.5%、女性59.8%)、「減った」7.9% (男性9.4%、女性6.4%)、「増えた」3.3% (男性3.9%、女性2.7%)。自粛下セックスをしていないのは男女ともに年齢が上がるにつれて増加傾向にあり、男女ともに、「減った」が「増えた」の2倍以上となっていた(次ページ図3)。セックス頻度が減るという傾向は、未婚(次ページ図4)、初婚(次ページ図5)、再婚以上、離婚などに分けても同様であった。

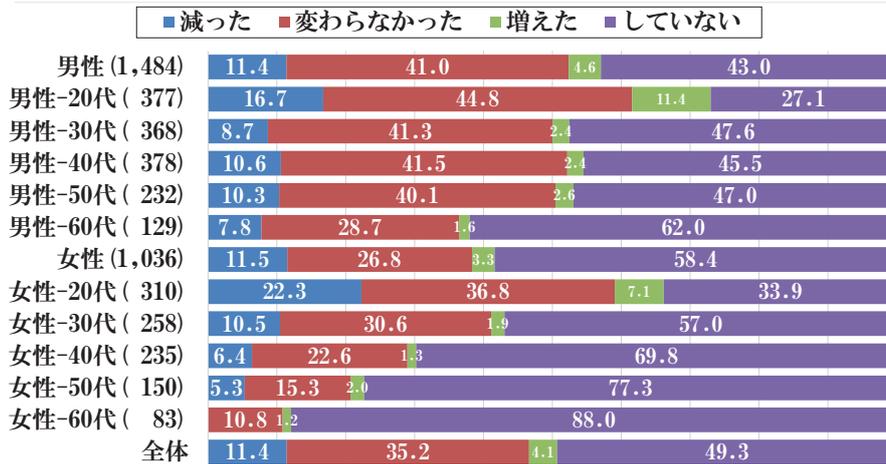
この時期でのセックス回数について、「減った」「増えた」に着目し、その背景を探った。男女ともに、「減った」と「増えた」の関係は「減った」が2倍を超えている。統計的に有意を示したのは、男性で「セックスが減った」と回答したのが、「パートナー(配偶者・恋人など)がいない」「自粛下、充実していなかった」「在宅勤務していなかった」「パートナーとの関係は悪くなった」「子どもと過ごす時間が減った」「運動習慣は減った」「喫煙量が減った」「暴力、相手から振るわれた」「自慰の頻度が減った」「パートナー以外とのセックスはしていない」「主な避妊法は男性避妊法」「50歳代、60歳代」など。一方、「増えた」は、「自粛下、充実していた」「在宅勤務をした」「パートナーとの関係が良好だった」「子どもと過ごす時間が増えた」「結婚した」「運動習慣が増えた」「喫煙量が増えた」「暴力、相手に振るった・お互いに振るった」「パートナー間での暴力が増えた」「自慰の頻度が増えた」「パートナー以外とのセックスをした」「主な避妊法は女性

図3 セックス頻度の変化 (%)



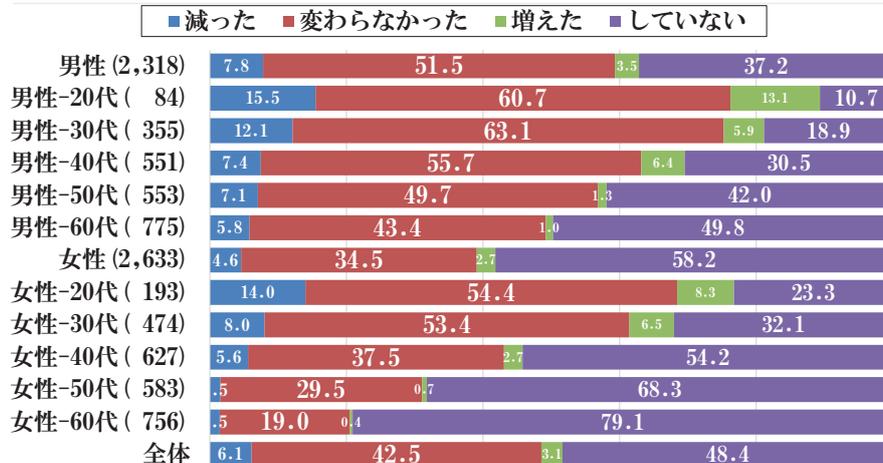
Q24 この時期に、あなた自身のセックス回数は変わりましたか。(SA)
 ※この時期とは「緊急事態宣言」前後(2020年3月下旬~5月下旬)になります
 【ベース：セックス経験者】

図4 (未婚) セックス頻度の変化 (%)



Q24 この時期に、あなた自身のセックス回数は変わりましたか。(SA)
 ※この時期とは「緊急事態宣言」前後(2020年3月下旬~5月下旬)になります
 【ベース：セックス経験者】

図5 (初婚) セックス頻度の変化 (%)



Q24 この時期に、あなた自身のセックス回数は変わりましたか。(SA)
 ※この時期とは「緊急事態宣言」前後(2020年3月下旬~5月下旬)になります
 【ベース：セックス経験者】

避妊法」「緊急避妊を利用した」などが目立っている。

セックスの頻度が減ったから自慰の頻度が増えたとはならず、性的に消極的な男性ではセックスも自慰も減るといふ結果となっている。避妊法については、女性避妊法、おそらくピルやIUD/IUSなどであろうが、セックスが増えたと回答した男性では、有意にその割合が高かったのが興味深い。相手との関係は良好だった、子どもと過ごす時間が増えた、在宅勤務した、充実していた、自粛下結婚したなど、充実した生活を送っていた男性ほどセックス回数が増えたというのも重要な点ではないだろうか。

それでは女性についてはどうだろうか。セックスが「減った」と回答した女性の背景を見てみよう。「既婚に比べて未婚」「子どもはいない」「パートナー（配偶者・恋人など）がいない」「充実していなかった」「自宅で過ごす時間が増えた」「子どもと過ごす時間が減った」「結婚しなかった」「飲酒量が減った」「パートナー間の暴力はなかった」「自慰の頻度は減った」「パートナー以外とのセックスしていない」「緊急避妊を利用していない」など。「増えた」のは、これらの逆ではあるが、「未婚に比べて初婚・再婚以上」「子どもがいる」「パートナー（配偶者・恋人など）がいる」「在宅勤務した」「子どもと過ごす時間が増えた」「子どもを預ける場所がなかった」「結婚した」「飲酒量が増えた」「パートナー間での暴力行為があった」「自慰が増えた」「パートナー以外とのセックスがあった」「緊急避妊を利用した」「妊娠した」などであった。男性と同様で、自粛下であっても、生活が充実していた女性でセックス回数が増えているが、自慰も同様に増えており、性的に活発な男女は、自慰もセックスも増えることになるようだ。

一方、セックスの頻度が「減った」理由を聞くと、「外出を控えていた」が44.2%（男性45.7%、女性42.1%）でトップ、次いで男性では「機会がなかった」26.4%（女性20.9%）、女性は「その気になれなかった」で28.8%（男性22.6%）。「本人あるいは相手がコロナに感染した」は0.4%であった。外出を控えて、自宅に籠もっていたら、セックスの頻度が増えるのではないかという仮説は成り立たなかった。2020年の妊娠届出数の減少、結果として出生率が低下することが話題になっているが、セックスが行われていない、減ったことが原因している可能性は極めて高い。

この調査対象者が20歳から69歳の男女となっていることもあり、「にんしんSOS」に若者からの相談が殺到したという報道に正確に答えることはできないが、セックスが行われた結果として妊娠不安に陥り電話相談やLINE相談に助けを求めたのだろうが、それが「妊娠」を必ずしも意味するとは限らない。長年にわたって電話相談事業を運営してきた筆者の経験からは、自粛生活で相談する時間が増えたことと相談件数の増加に関係があるのではないだろうかと推測している。

自粛下にあっても、人と人との繋がりを大切にしたい

COVID-19についても、ワクチン接種がスタートしたとはいえ、供給不足もあって、全国民に対する接種が完了するのがいつになるのか皆目わかっていない。そのような中で、COVID-19の第4波、第5波などによって、今後も緊急事態宣言が発令される可能性すら否定できない。あるいは、COVID-19が収束してもなお、想定外の人災や自然災害などのために自粛を余儀なくされることもあり得る。その際、今回の調査研究の成果を活かせるようにすることが極めて重要であることは今更言うまでもない。以下、提言をまとめた。

- ①今後、自粛を余儀なくされる事態が起こった際にも、充実した生活を送れるようにするためには、ある程度の収入の確保と、人と人とを分断させない、孤立させない施策が求められる。
- ②感染拡大を防ぐために人流を止めることが不可欠であることは今更言うまでもないが、先の見えない自粛要請に国民は疲弊し始めてはいないだろうか。ワクチンの供給を確保し、接種機会を増やし、集団免疫の獲得を急ぐことが重要である。それによって、人と人との繋がりを大切にすることが「充実した生活」に向けた第一歩ではないだろうか。
- ③コロナ禍の自粛によって暴力が増えていなかったとの結果が出ているが、これは元々あったパートナー間での暴力が、「自宅で過ごす時間が増えた」「休日が増えた」などによって顕在化した可能性が考えられる。しかし、在宅勤務というよりも、失業・休業・収入減少などが暴力の引き金になっていること

もあるので、これらを考慮した対策が求められる。

〈謝辞〉本調査の報告を終えるにあたり、調査にご協力いただいた国民の皆さんに心から感謝したい。さらに、以下研究協力者に深謝したい。(敬称略)自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門 阿江竜介・小佐見光樹、(国立社会保障・人口問題研究所) 林玲子・守泉理恵・中村真理子、(神奈川県立保健福祉大学) 吉田穂波、(東北大学大学院環境科学研究科) 田代藍、(日本家族計画協会家族計画研究センター) 杉村由香理

中高生向け啓発冊子 「#つながるBOOK」の活用を！

COVID-19に限らず、今後、人災や天災などによって再び自粛生活を余儀なくされた時に、若者たちが自ら対処できるように、自粛下におけるコミュニケーションの取り方、性行動、暴力の防止や予期せぬ妊娠等を回避する内容を中心としたA5見開き22頁の啓発資料を制作した(図6)。若者が性的同意や意思決定などの生きる力・ライフスキル・人につながる力、正しい知識につながる力を身につけてほしいと願って作成したものである。【恋愛編】【SEX編】【月経編】【妊

① <https://www.jfpa.or.jp/tsunagarubook/>

② <https://www.jfpa.or.jp/tsunagarubook/tsunagarubook.pdf>

図6 #つながるBOOK



娠編)【性感染症編】からなっており、印刷物としてだけでなく、スマホやiPadなどでも利用できる仕様となっているので、下記サイトからダウンロードされご活用されたい。

〈謝辞〉本冊子制作にあたられた研究協力者に深謝したい。(敬称略)埼玉医科大学産婦人科) 高橋幸子、(女子栄養大学保健養護学研究室) 久保田美穂、(さくらい助産院) 櫻井裕子、(埼玉大学教育学部) 田代美江子、(合同会社カレイドスタイル) 小野梨奈、(日本家族計画協会) 杉村由香理

①



②



性科学ハンドブック Vol.13

好評発売中!

岩室紳也と早乙女智子の もっと知りたい性のこと

岩室紳也・早乙女智子著

◆A5判:138頁 頒価700円

『現代性教育研究ジャーナル』2014年4月号～2017年3月号に連載した「もっと知りたい女子の性／もっと知りたい男子の性」に、加筆・訂正して再構成したものです。

主な内容

- part 1 多様な性／「性」を科学する難しさ／女は女として生まれたい／性別違和／ジェンダーバイアス・ジェンダーギャップ ほか
part 2 女性の性／膣VAGINAはくぼみである／女子もします！ マスターベーション／人工妊娠中絶と女性の身体権 ほか
part 3 男性の性／「包茎」を科学する／男子はおちんちんで育つ／「男」は環境で育つ性／男性の性機能って何？ ほか

著者プロフィール

岩室 紳也／泌尿器科医。ヘルスプロモーション推進センター(オフィスいわむろ)代表。AIDS文化フォーラムin横浜運営委員。
早乙女智子／産婦人科医。公益財団法人レイ・パストゥール医学研究センター研究員、日本性学会副理事長。セックスセラピスト。

*送料等は、ホームページを参照してください。

◆JASE ホームページ <https://www.jase.faje.or.jp/pub/pub.html> からお申し込みいただけます。
または、Email info_jase@faje.or.jp
TEL 03-6801-9307 FAX 03-5800-0478



いつきの“ヒューマン・ビーイング”

人権について考える ④

土肥いつき

京都の公立高校教員。24時間一人パレード状態のトランス女性。趣味の交流会運営で右往左往する日々を送っている。

ドッジボールのようなカミングアウト・キャッチボールのようなカミングアウト

先生お久しぶりです(*^^*)今も変わらず人権問題にとりくまれているのですネ。人間、皆平等って、難しいです。そのために人権問題にとりくまれているのなら、細かいことや背景は何にもわからないけど、他の人にも平等に人権があるうえで、先生には今後もとりにくんでもらいたいです。

先生、当時部落地区の生徒を可愛がってるみたいで、私は嫌われてるんだって、寂しかったです(>_<)。(中略)在日や、部落地区、その人達と同じ分、私にも違う悩みがありましたから。そういう背景も視野に入れて、人権問題にとりくんでいただきたくて。(中略)誰かだけがきつい生活をしてるんだって見方をするように見受けられて、悩みがあっても言えない寂しい思いしてる人が今もいるかもしれないです(>_<)

これは、「92年度卒業生」さんという人が、2009年のある日のわたしのブログに書いてくれたコメントです。「92年度卒業生」さんは、はじめて担任をした学年の生徒で、3年生の時に担任しました。当時のわたしは、ようやく隣保館学習会で部落の生徒と、社会科学部研究部の活動で在日の生徒と出会いはじめた頃でした。わたしは、そんな生徒たちから教わったことを、一生懸命クラスの子どもたちに語っていました。当時のわたしは自分も含め部落・在日以外を差別者と考え、だからこそ「君らは差別者や。そこから変化せんとアカン！」と語っていたように思います。

そんなわたしが、ある日突然「当事者」になりました。「当事者」になって最初にやったのはカミングアウトでした。とは言え、身近な人にはとてもではないですがこわくて言えません。幸いにして、わたしの知りあいは、みんな人権教育関係者です。人権教育関係者は人権課題である以上、カミングアウトを拒否することはありません。その中でも優しくな人を選んでカミングアウトしていきました。問題は、そのカミングアウトのしかたでした。ようやく名前のついた自分のこと、そしてその自分のしんどさを「わかってほし

い！」とばかりにきつと相手におつけていたんだろうと思います。

関西大学人権問題研究室の宮前千雅子さんは「カミングアウトには2種類ある。ひとつはドッジボールのようなカミングアウト。もうひとつはキャッチボールのようなカミングアウト」と言われます。ドッジボールは相手にぶつけるために、力一杯ボールを投げつけます。それに対して、キャッチボールは相手が受けとめやすいところにボールを投げます。そして投げたボールは相手が投げ返すことで、再び自分のところにやってきます。いま振り返ると、当時のわたしのカミングアウトは「ドッジボールのようなカミングアウト」だったんだろうと思います。

なぜドッジボールのようなカミングアウトをしてしまったのだらうと思う時、きつとそこは「語れるしんどさ」と「語れないしんどさ」があったのだらうと思います。前号に書いた「恵まれたしんどさ」は、実は「語れないしんどさ」でした。それに対して、「変態」としての自分は、語るとか語れないとかいう以前の問題、「しんどさ」と認識することすらできないものでした。そんなわたしは、「当事者」がうらやましかったんだろうと思います。それが、1997年のある日を境に「このしんどさは語れるかもしれない」と思った時、必死で「語れるしんどさ」にしようとしたその結果がドッジボールのようなカミングアウトになったんだろうと思います。

「92年度卒業生」さんのコメントは、それから12年間後のことでした。さまざまな人から受容されることを通して、少しはキャッチボールのようなカミングアウトができるようになったかなと思った当時のわたしは、次のようなコメントを返しました。

あれからすでに17年もたっていて^^;;。いまはずいぶん違いますよ。部落の子や在日の子が抱えている重荷と、自分自身が持っている重荷を重ねあわせること。そこに「軽い重いはない」ということ。そこから人権を考えてほしいと思っています。

[静岡県立清水特別支援学校] (下)

当事者意識を持てるように「自ら考える学び」を実践

前清水特別支援学校高等部（令和3年3月まで在籍）の國分聡子教諭は、特別支援学校の児童生徒に20年以上にわたり、系統性をもたせた性教育を実践している。体や性に対する知識と共に、性教育の大きな柱となるのがマナーとコミュニケーションだという。前号に引き続き國分教諭の実践事例を紹介する。

ワクワクするネーミングで授業を開始

國分教諭は、小学校高学年や中学部での性の学びを「ハートタイム」、高等部では、「マイライフ」と名付けて授業を行っている。

『「性教育」「保健の授業」というよりも、こういう名前のほうが『これから何が始まるんだろう』とドキドキ、ワクワクするじゃないですか』と國分教諭。

第1回目の授業では「さあ、これから素敵な中学生（大人）になるための学習を始めるよ」そんな國分教諭の言葉で授業が始まる。性の授業を「ハートタイム」「マイライフ」と名付けることで、「この授業は何のために必要なのか」という学びの意義も意識できるという。

学びのルールはマナー教育につながる

もう1つ。國分教諭が最初の授業で生徒たちにしっかりと伝えることある。それが学びのルールだ（図1）。

図1

授業やセッションの前に必ず「学習のルール」を伝える

- 先生の話最後まで聞いて、「質問がありますか？」と聞かれてから質問すること。
- 先生に対するプライベートな質問は、答えられないこともあります。
- 性の話は、教室やトイレ、公共交通機関（バスや電車）、道や駅、バス停などではしないこと。もちろん配られた資料も見たり見せたりしないこと。



静岡県立清水特別支援学校
 学校長 成岡裕司
 児童・生徒数 256人
 教員数 106名

(2021年3月現在)

生徒たちが性の学習で配布されたワークシートをところかまわず広げてみたり、電車やバスの中で性器の名称を声に出してみたり……性教育の授業の後に起こりがちな光景だ。

しかし、國分教諭は「これは最初に約束を教えなかった大人の責任なのだと思います」と語る。

例えば、教員に対するプライベートな質問をしないことも学びのルールで最初に示す。

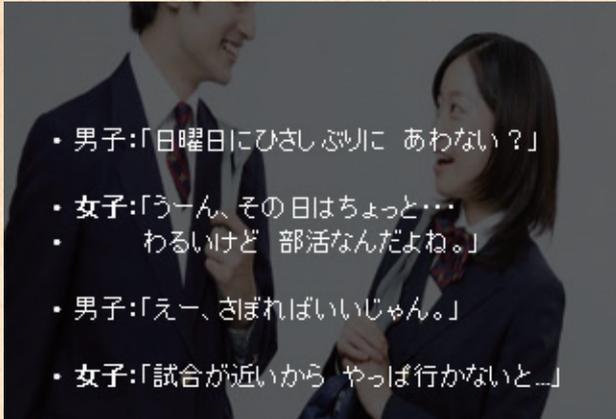
パーソナルスペース（他者が自分に近づくことを許せる範囲）を示したイラストを使いながら、「自分の性の話ができるのは、ここまでの関係の人なんだよ。先生は君たちとは毎日会うけれど、君たちの家族や友達ではないでしょう？ だからプライベートのことは答えられないこともある」と説明する。学びのルールは、同時にマナー教育にもつながっている。

生徒たちの興味をひくには、『ルール』のほかにも『ミッション』といった言葉を使うのも効果的だと話してくれた。

じろじろ見ないことを学ぶ「チラ見選手権」

國分教諭が性教育を進めていくうえで大切にしているのが「学びの見える化」である。理解を促すために教材・教具をフルに活用するが、マナーやコミュニケーションの学びにおいても「見える化」を意識し、生徒が興味を持つように工夫を凝らす。

図2 グループワークで異性間のコミュニケーションを学ぶ



例えば「振る舞い・マナーの見える化」においては、「チラ見選手権」という授業を行うことがある。

発達障害があると、その特性から異性を執拗に見つめてしまうことがあるという。「特に男の子は、気になる異性があるとチラッと見ることができない。じーっと見つめてしまう、いわゆるガン見をしてしまうのです。ガン見された方は不快感極まりないですね。でも、見るなというのは無理な話です。そこで「チラ見」を教える意味ではじめたのが、チラ見選手権なんです」。

女性教諭に教室に入ってきてもらって、誰が一番チラ見がうまいかを競うものだ。「どのくらい見るのが許容範囲なのか」を、生徒たちに考えてもらう。

「2秒見ていると長いかもね」「いや、1秒でも長いよ」「0.8秒くらいかな？」こんなふうに、生徒たちが自ら答えを導きだしていく。

「練習するうちに、みんな『チラ見』が上手になってくるのです」と國分教諭。「チラ見選手権は、自分の振る舞いが、他者から見てどのように思われるかを知るきっかけにもなるようです」と語る。

「アイメッセージ」で断る

性教育で大切になるコミュニケーションもグループワークで学ぶ。甘い言葉で異性から誘われたときに、どうやって断るのか。國分教諭は、「どのような対応をすればよいのだろう。各班で考えてみよう」と生徒たちに問題を投げかける(図2、3)。

あるときは、ボックスの中に甘い誘い文句を書いた紙を入れたカプセルをたくさん用意して、代表者がその中の1つをグループに持ち帰り課題とする。

グループで誘い役と誘われ役に分かれて、パペットを使って断り方のロールプレイをして、断り方を考える。

図3

考えよう2 どんな会話ならいいでしょう？

★男の子は、この女の子に どんなふうに言ったら よかったですでしょうか？



★女の子は、この男の子に どんなふうに言ったら よかったですでしょうか？

⇒ 教えずとも子どもたちからアイメッセージのセリフがどんどん出てくる！

図4

・性を日常に… ・繰り返し学ぶ
伝えにくいことを、ユーモアをもってわかりやすく！性教育トイレトイレットペーパーという方略！
授業での学んでいるからレディネスは十分！
保護者にもお便りで紹介する



「性教育トイレトイレットペーパー」という教材があることを知り、学校のトイレに導入した。



「子どもたちは、効果的な断り方を考えるうちに、自然にアイメッセージ(会話のときに「私は」という主語をつける伝え方)で断れるようになります」。

日常の中で性を繰り返し学ぶ

國分教諭は、清水特別支援学校の小学部、中学部、高等部の計12年間、それぞれの発達に合わせた性教育の指導内容をつくり、授業の手順や指導の工夫、キーワード、成果などをデータに残して、全教員で共有できる仕組みも構築した。

独自の教材教具の開発や指導の工夫、持続的な取り組みが評価されて、静岡県優秀教職員賞(平成28年度)、文部科学大臣優秀教職員賞(平成29年度)、第51回(2020年度)博報賞奨励賞と多くの賞を受賞した。また、『性の教育ユニバーサルデザイン(共著)』(金剛出版)などの著作物もある(図4)。

「思春期に必ずぶつかるのが性の問題。性はあいまいにはできない問題です」と國分教諭。

「性教育は障害児も健常児もすべての児童生徒に必要な学びです。特別なものではなく、生き方教育の一環として、性教育が当たり前のように日常に入り込めるといいなと思っています」と期待を語った。

(取材・文 エム・シー・プレス 中出三重)

多様な性
のゆくえ

One side/No side [51]

課長さん、どうします

新聞の社会面で立川らく朝さんの訃報を知ったのは5月12日だった。今年2月から療養中で、5月2日に亡くなったという。67歳。立川志らく師匠のこんなコメントを紹介する新聞もあった。

『いくら年上でも弟子には違いないので師匠より先に逝くやつがあるかと言う思いです』

らく朝さんは44歳で志らく師匠の客分の弟子となり、46歳で正式に入門。当時すでに内科医として活躍していたが、学生時代からの夢を捨てきれず、二足のわらじでプロの落語家を目指したという。4年後に二つ目、そして2015年には、入門から15年かけて真打に昇進している。医師としての経験を生かし、「健康落語」や「ヘルシートーク」といった健康教育の新ジャンルも開拓した。

2010年6月30日には、東京・丸の内『身近に感じてほしい～HIV陽性者とともに働いていること～』と題し、東京都主催の講演会が開かれた。都のHIV検査・相談月間最終日のことだ。らく朝さんが話をするというので、私も取材を兼ねて会場を訪れた。

落語家ではなく、エイズ教育に取り組む医師として以前から存じ上げていたからだ。

1994年に横浜で第10回国際エイズ会議が開かれた前後には、国内でも企業がエイズ対策に取り組もうとする機運が盛り上がった時期がある。らく朝さんは当時（まだ、落語家らく朝ではなく）、エイズ対策企業懇話会という団体の事務局長を務めていた。

東京都の講演会があったのは、それから15年も後のことだったので、この間のブランクを考えると、きちんとした話ができるかどうか、らく朝さんにも不安があったという。

だが、落語というコミュニケーションのスキルを自分がどこまで生かせるのか。そして、それが通用するのかどうか。講演当時、二つ目だった医師兼落語家にはチャレンジしたいという思いもまた強かったのではないか。高座スタイルの講演はこんな話から始まった。「日本は惜しかったですねえ。惜しかったけれど、パ

ラグアイもあまり調子は良くなかったそうです。腹具合が悪かった……」

南アフリカではサッカーW杯が開催中だった。日本代表は決勝トーナメントでPK戦の末、パラグアイ代表に敗れ、ベスト8進出を逃した。そのニュースが伝えられたのは講演会当日の早朝である。

最新的话题をいち早くマクラにして会場の雰囲気をつかむ。さすが！と感心した。こういう時のダジャレは少し滑り気味の方が聞き手との距離を縮める効果は高い。そのことも計算済みだったのだろう。そこから本題に入る。15年前に企業のエイズ研修で行ったロールプレイングの話である。

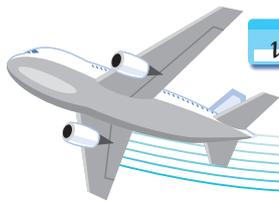
《課長と部下2人が残業をしていた。部下の1人が指先を切って出血したので、もう1人が手当をしようとすると、指を切った本人があわてて「さわっちゃだめ」と制止する。会社には黙っていたが、実はHIVに感染しているのだという》

HIV陽性者であることをカミングアウトする結果になった部下に対し、課長は何と言葉をかけるのか。課長になったと思って考えてください……。

研修を受けた企業関係者からは「君がHIVに感染していることはちゃんと部長に報告しておくから安心してほしい」といった趣旨の回答が多かったという。ホーレンソウ（報告、連絡、相談）は企業人の基本ということだろうが、これでは部下も安心などできない。また、部下の健康に関する個人情報を業務上知り得た場合には、上司にも守秘義務がかかる。報連相と守秘義務の板挟み。課長はどうしたらいいのか……。

2010年時点の講演会場はシーンと静まり返った。

さらに11年が経過した今なら、課長さんはどう対応するのだろうか。話はHIVの感染に限らない。セクシュアリティに関してはどうなのか。そしてコロナの流行と対策は企業にどのような影響をもたらすのか。多様なあり方、働き方を受け入れる職場の理解は広がっていると思いたい。だが、そうとは言い切れない事例がいまなお、噴出することもしばしばある。



vol.1

イタリアから ポルトガルから

柳田正芳 (やなぎだ まさよし)

性の健康イニシアティブ 立ち上げ人 / 代表、日本性科学会
事務局長、WAS (性の健康世界学会) Youth Initiative 元メ
ンバー。性の健康に関する活動のあちこちに潜伏。

性教育・性科学
世界の今

▶▶ イタリア発

新型コロナ後を見据えたオフラインイベント開催！

2021年6月に、イタリアのローマで「COVID-19 (新型コロナウイルス感染症) 後の世界でセクシュアル・プレジャーを取り戻す」と題したオフラインイベントが開催されました。イベントに携わった、心理学者のStefano Eleuteri (ステファノ・エレウテリ) 氏にお話を聞きました。

Stefano 氏によれば、平日の夜に行われたイベントであったそうです。心理学者であるStefano氏が「COVID-19に関連する性的な問題を心理学的な視点からどう克服するか」をテーマに、Antonio Colasanti (アントニオ・コラスанти) 氏が「性の問題に対する薬理的アプローチ」をテーマにそれぞれ30分ずつ話した後、参加者からの質疑応答を受ける時間になったとのことでした。

イタリアでは現在、コロナの影響により大規模なイベントを開催することができないそうですが、その状況下で20名ほどの方が参加してくれたということでした。イベント終了後のStefano氏は「来てくれた20人の人たちはSNSの告知でこのイベントを見て来てくれました。規制の関係で事前予約が必須でしたが今回イベントをやってみて、一般の方々の関心が高いことがわかりました。また、軽く飲食できるようなものを提供することで、こういったテーマのイベントであっても、堅苦しくなく過ごしやすい時間を作ることができたと感じています」と満足感と手応えを語っていました。

また、Stefano氏はこの同じタイミングで新団体を立ち上げ、心理的ならびに性的なwellbeing (幸福、良好さ) の向上を目的に活動をしていくということでした。

Webメディア「Sexual Health NAVI」では、Stefano氏が語った更なる詳細や、新団体の今後の動きについてなども伝えています。ぜひご覧ください。

<https://sexualhealth.jp/archives/698>

▶▶ ポルトガル発

世界で初めて、「性の健康デー」を記念日に制定した国

「世界性の健康デー」。2010年にWAS (性の健康世界学会) が提唱した記念日で、9月4日をその当日としています。現在は世界60カ国以上で9月4日前後に記念イベントが開かれています。日本でも「世界性の健康デー 東京大会」が例年JASEの協賛のもと行われています。

この性の健康デーという日が、ポルトガルにおいて、世界で初めて、国としての記念日に指定されたというニュースが飛び込んできました。2021年6月のポルトガル議会において全会一致での決定だったそうです。「性の健康」を国を挙げて重要なものであると承認する国が、遂に登場したことを意味します。

今回のこの出来事を受けて、世界性の健康デーを提唱するWASの事務局長であるLuis Perelman (ルイス・ペレルマン) 氏に話を聞きました。

ポルトガルの決定は一夜にして成ったものでは当然なく、2010年の世界性の健康デー制定以来の、様々な小さな出来事の積み重ねであったそうです。

「私たちはいつも、世界性の健康デーが国連で記念日として宣言されることを夢見ていました。そしてそれが私たちが住んでいるローカルの地域に影響を与え、それぞれの地域でも同様に記念日として宣言されることを期待してきたのです」と語るLuis氏は、それまでに特定の国の特定の地域や州が独自に性の健康デーをその地域や州の記念日として宣言した事例などを挙げたうえで、その積み重ねがポルトガルの決定に影響を及ぼしていったことを教えてくれました。

Webメディア「Sexual Health NAVI」では、Luis氏が語った内容を紹介しています。ぜひご覧ください。

<https://sexualhealth.jp/archives/704>

なお、「世界性の健康デー 東京大会」を今年も9月5日にオンラインで開催予定です。みなさま、予定を空けておいてください。

BOOK GUIDE

今月のブックガイド

「わたし」が語る性教育

性教育 YouTuber シオリーヌ著『こどもジェンダー』は、こどもに向けて、こどもの身近な生活のなかでのジェンダーをわかりやすく説明するもの。カラフルなページとポップなイラストは、絵本のように手に取りやすい。パラパラめくるだけでも楽しいが、実はかなりのボリュームである。

服や玩具、ランドセルやキャラクターなど、あらゆるものが男女で二分されるジェンダーバイナリーから始まり、お父さん・お母さんの役割、「ふつう」とされる性別役割やジェンダー規範、そして、セクシュアリティの多様性まで、性のさまざまな側面について具体的な場面を挙げながら問いかけていく。小学生ならひとりでも読めるし、幼児に読み聞かせるのもよいらる。もちろん、若者やおとなも社会のジェンダーをどう変えていけるかを考えるのに役に立つ。

ここで挙げられているテーマは、従来、性教育の実践者やジェンダー研究者が「問題」としてきたものばかり。長年、「これはジェンダー」と指摘し続けてきたことだ。でも、本書ではそれらを「問題」ではなく「問い」にしている——「あなたはどうかおもう？」と。これは、これまでの性教育にみられがちだった教える姿勢と大きく異なる点だろう。正しい知識を教えようとするのではなく、こどもとの対話を始めること。こどもの意見を正すのではなく、認めていくこと。つまり、これはジェンダーをめぐる対話を開く本なのだ。

どのテーマでも、「どうすればいいかな?」「どうかんがえればいいかな?」とこどもの行動や考えを促しながら、「こうつたえてみるのはどうかな?」と提案する。著者のアイデアがどんどん出されるのも本書の特徴だ。もちろん、それを選択するのはこども自身。おとなから発信して、アイデアを語る。そして、こど



こどもジェンダー

シオリーヌ (大貫詩織) 著
ワニブックス
定価 1540 円 (税込)

もが考え、こどもが選択することを待つ。こうした著者の姿勢が、こどもが安心して学び、変化していく力を育むように思われる。

番外編の「みんなちがって、みんな『いいね!』」では、他者との関係性について説明されている。ここまで読み進めてきたこどもは、ジェンダーを考えると友だちと楽しく過ごすことが同じであると気がつくはずだ。お互いの「ちがい」があるのは当然であり、どんな人も色や役割やキャラクターなどで分けられるものではない。自分で選べて、相手の選択肢を狭めない。そんな「いいね!」がつく社会に向けて、幼いうちからこどもたちが対話を重ねることの大切さを再認識する本である。

著者の「CHOICE 自分で選びとるための『性』の知識」(イースト・プレス、2020年12月)は、思春期から青年期の若者、そしておとな向けのもので、具体的でわかりやすい。これもキーワードは、選択(CHOICE)。生理用品や避妊方法、恋愛や交際、性行動まで、メリットとリスクを知り、選択する自分になるのを応援してくれるような一冊。助産師であり児童思春期病棟で心のケアを学んだ著者だからこそ、若者に近い目線で話題を選び、若者にわかる言葉で伝えられているのだろう。新刊「もやもやラボ キミのお悩み攻略BOOK!」(小学館)も楽しみ!

YouTubeの性教育シリーズもオススメ。最近アップされた「モヤモヤしない結婚式のために私たちがこだわったポイントを紹介します!」では、パートナーとともにご自身の結婚式のエピソードを披露。“新婦が父親から新郎に引き渡される”儀式的モヤモヤを「出荷感」と表現されていた。出荷!(欄外アドレス参照)

「わたし」の感覚から語られる言葉の力は絶大だ。パワフルな性教育は、「わたし」の語りから始まり、対話へとひろがる。性教育の新時代が始まっている。

(大阪大学大学院准教授 野坂祐子)

9 / 5 (日)

13:00 ~

第12回世界性の健康デー記念イベント 2021 in 東京 東京性教育研修セミナー 2021 夏

sexual health in a digital world

ネット時代の性の健康

有料オンライン開催

内容

◎トークセッション1 インターネットと性の健康～安全とプレジャーを両立する～

「インターネットと性」というと、リスク管理やリテラシーといった話題に関心が行きがちだが、インターネットには人と人の繋がりを補足するという側面がある。触れ合うこと自体がリスクになり得るコロナ時代の今だからこそ、インターネットのポジティブな面を上手に活用して性の健康を楽しみたい！ そのためにどうすればいい？ そんな話をしたい。

◎性の健康に関する団体の活動報告

◎トークセッション2 性教育へのICT活用 これからの可能性を探る

「親は子どもにどうやって性教育すればいいの？」という相談が増えている。親から子どもに何を伝える？ どう伝える？ その疑問や課題にICT活用の観点から何ができるかということを探索してみたい。

※内容は微妙に変更になる場合があります。

詳細は <https://wshd.jp> で順次公開していきます

参加費・問い合わせ先等

参加費／一般 1,500円（一律。学割無し）

主催／世界性の健康デー東京大会実行委員会 協賛／日本性教育協会

問合せ・申込み先／<https://wshd.jp/>



9月3日(金)～5日(日) Web開催



第40回日本思春期学会総会・学術集会

オンデマンド配信期間：9月27日(月)正午～10月3日(日)正午まで(予定)

思春期を科学する

◆学術集会の主なプログラム◆

会長講演 「思春期を科学する－ライフステージにおける思春期の重要性－」 榎原秀也（横浜市立大学附属市民総合医療センター）

特別講演 「思春期とプレコンセプション」 荒田尚子（国立成育医療研究センター）

特別講演 「思春期と性同一障害／性別不合」 中塚幹也（岡山大学大学院保健学研究科）

教育講演 「新型コロナウイルス感染拡大とメンタルヘルス」 太刀川弘和（筑波大学医学医療系）

シンポジウム 1 「思春期男子のヘルスケア」

シンポジウム 2 「ストレス下における思春期女性のヘルスケア」

シンポジウム 3 「思春期におけるがん教育を考える」

シンポジウム 4 「SDGs時代の思春期のリプロダクティブ・ヘルス」

ワークショップ 「性教育学と性教育（実践）を繋ぐには」 ほか

参加費・問合せ先等 詳細は、<http://www.pw-co.jp/40jsa2021/>



▶▶ 第28回 AIDS文化フォーラムin横浜 8月6日(金)～8日(日) (ハイブリッド開催) ◀◀

ともに生きる つながりの参加者になる

1994年、エイズ国際会議を契機にはじまった、市民による市民のためのフォーラム。HIV/AIDSを医療だけの問題ではなく、広く文化の問題としてとらえることに重きを置き「文化」の2字を入れている。

日 時：2021年8月6日(金)～8日(日) 10:00～18:00 (最終日16:00まで)

会 場：あーすぶらざ&オンライン

ハイブリッド開催(会場+オンライン：ZOOM ウェビナー) 及びオンライン活動紹介(映像掲載)

※緊急事態宣言等の対応により、オンラインのみの開催の場合もあり。

参 加：参加自由・入場無料

主 催：AIDS文化フォーラムin横浜組織委員会 共催：神奈川県

詳しくは：<https://abf-yokohama.org>



主催 SEE性教育アカデミー
協賛 日本性教育協会 (JASE)

1ヶ月間見放題 3000円
全編(80分) 日本語字幕つき



サンプル動画
無料配信中



SEE
ホームページ

SEE性教育アカデミー2021 Webinar

Attitudes Toward Sexuality Education and Values in Sexuality Education

世界の〈学校〉性教育

それぞれの国における現状と課題・乗り越え方

性教育を特集した報道・記事が急増しています。「おうち性教育」という言葉とともに聞こえてくるのは、「日本は性教育後進国」「肝心なところはAV任せ」「学校教育には期待できない」といった批判の声。では、諸外国の現状はどうなっているのでしょうか？

インタビュー形式で録画編集した動画6本と特別編1本で構成されています(80分)。ゲストは、ユネスコ編『国際性教育テクニカルガイダンス』の策定メンバーや、「セクシュアル・プレジャー」概念を定義したGABの諮問委員、性に関わる専門職認定の必須要件とされるSAR(性に対する価値や態度の自己再評価)研修の指導者など、性教育の経験豊かな6名。各国の現状と課題に加えて、性教育の価値、性教育に対する態度、実践家の研修プログラムなどの話題、さらには〈性の健康〉と〈性の権利〉をつなぐ…重要なのに、忘れ去られてきた…リンク〈セクシュアル・プレジャー〉についての解説もあります。日本語字幕つきで、1か月見放題。

★ゲスト・スピーカー

Dr. Charlotta Löfgren-Mårtenson (スウェーデン/マルメ大学教授/社会福祉・性科学)

「最近、大きく変化した学校性教育のありようとその理由」

Dr. Tommi Paalanen (フィンランド/セクスボ財団代表/哲学・性科学)

「研修は(800時間以上の性教育実習を含め)1年間」

Dr. Sara Nasserzadeh (米国/AASECT認定セックス・セラピスト/社会心理学)

「専門職の認定にはSARの受講が必須条件」

Dr. Jacqui Hendriks (オーストラリア/カーティン大学講師/性科学)

「性科学で修士号・博士号が取得できる大学における教育」

Dr. Wenli Liu (刘文利) (中国/北京師範大学教授/性教育)

「中国における包括的セクシュアリティ教育の推進」

Antón Castellanos Usigli (国際的組織GAB諮問委員/公衆衛生学)

「セクシュアル・プレジャーは性の健康と権利をつなぐリンク」

★動画(Webinar)の視聴方法

- ①お名前、②ご所属、③連絡先を事務局 (kansaishy@gmail.com) まで
- 事務局から連絡の口座に視聴料3000円を振込 (Paypalもご利用可)
(複数で視聴される場合は、人数分の振込みが必要)
- 入金確認後、動画視聴用のURLを通知

1ヶ月間、繰り返し視聴できる。

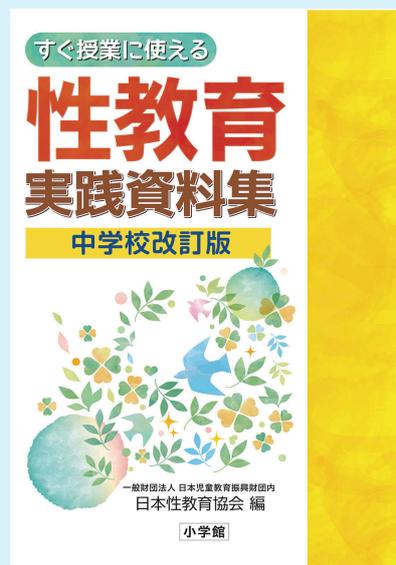
すぐ授業に使える

性教育実践資料集

中学校改訂版

〈主な内容〉

- 第1章 中学校における性教育（性教育を実践するにあたって／性教育の目的と意義）
- 第2章 性教育の実践（性教育の現状と実践の課題／学習指導要領における性教育の取り扱い／性教育の指導体制／指導計画の作成／性教育実施上の留意点／家庭・地域との連携／中学校の性教育の今後に向けて）
- 第3章 指導事例（各学年における指導計画と指導の流れ／8つの1年生の指導事例／6つの2年生の指導事例／6つの3年生の指導事例／7つの個別指導事例／5つの組織の指導事例）
- 第4章 参考資料（性行動経験率／性的なことへの関心割合／自慰経験率／性的関心の経験割合の推移／性へのイメージ／性感染症報告数の推移／梅毒患者報告数の推移／HIV・エイズ感染者の動向／人工妊娠中絶実施率及び推移／用語解説）



定価 2,200 円（税込） B5 判・224 ページ

「若者の性」白書

第8回 青少年の性行動全国調査報告

〈主な内容〉

- 序章 第8回「青少年の性行動全国調査」の概要
- 第1章 変化する性行動の発達プロセスと青少年層の分極化
- 第2章 青少年の性規範・性意識からみる分極化現象
- 第3章 家庭環境や親子のかかわりの違いは青少年の性行動に影響を与えるか
- 第4章 知識・態度・行動の観点からみた性教育の現状と今後の課題
- 第5章 青少年の性行動と所属集団の性行動規範
- 第6章 青少年の避妊行動の実態と包括的性教育の可能性
- 第7章 性的被害と親密性からの／への逃避
- 第8章 青少年の性についての悩み
～自由記述欄への回答からみえるもの～



定価 2,420 円（税込） A5 判・256 ページ

編／一般財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会 発行／小学館

全国の書店にて、ご購入いただけます！